

平成 30 年度第 2 回市川市大町レクリエーションゾーン協議会議事録

開催日時 : 平成 30 年 10 月 17 日 (水) 午後 1 時 30 分から

開催場所 : 動植物園内会議室

出席者 : 委員 加藤武央委員・石原みさ子委員・淡路洋委員・宮田明吉委員・久保田章委員・
竹内一雄委員 (会長)・井上好子委員・高橋ひろ子委員
(山田文也委員 [欠席]・時田正一委員 [欠席])

所管課 水と緑の部 中野政夫部長
伊藤幸仁次長

動植物園 須藤 治園長・事務局担当 4 名

関係課 教育委員会 生涯学習部 青少年育成課 野村良 2 課長

教育委員会 生涯学習部 考古博物館 杉山元明館長

教育委員会 生涯学習部 青少年育成課 少年自然の家 花澤進一 所長

教育委員会 生涯学習部 考古博物館 自然博物館 西山光生館長 他担当 1 名

宮川 : 定刻となりましたので、只今から平成 30 年度第 2 回市川市大町レクリエーションゾーン協議会を開催させていただきます。本日は山田 文也委員、久保田 章委員から欠席のご連絡を、竹内 一雄委員長、淡路 洋委員から遅れるとのご連絡を頂いています。本日は現時点で 5 名の委員の方の出席を頂いていますので、市川市大町レクリエーションゾーン協議会条例第 8 条第 2 項に定める定足数に達していることから、本会議は成立となります。また、本日の協議会につきましては傍聴希望の方はおりません。本日の議題ですが、1 番「平成 30 年度事業実施状況について」、2 番「大町公園現地視察について」、3 番「その他」です。それでは、事務局を代表して水と緑の部中野部長よりご挨拶をお願い致します。

…中野部長挨拶…

宮川 : これからの議事進行については、竹内会長が所用で遅れる為、時田副会長にお願いします。時田副会長、よろしくをお願いします。

時田 : はい。それでは代理として。平成 30 年度、第 2 回市川市大町レクリエーションゾーン協議会を開催します。議題 1「平成 30 年度事業実施状況について」事務局より一括で説明をお願いします。

杉山 : …平成 30 年度事業実施状況説明 (自然博物館) …

野村 : …平成 30 年度事業実施状況説明 (少年自然の家) …

須藤 : …平成 30 年度事業実施状況説明 (動植物園) …

時田 : 只今の報告で質疑のある方は挙手で。

加藤 : 入場者数減の理由と割合は。行事と展示のどちらの減少が多かったか。

杉山 : 展示の方が減少。行事はほぼ影響無しと思う。

加藤 : 少年自然の家の事業上期分 1 から 8 の中で苦勞した点は何か。

野村 : 事業 1 のチャレンジャースクール。初回が真夏日だった為、熱中症の対策。2 回目は台風 12 号の接近により前日に中止。昆虫採集と宿泊体験という事で、台風での中止を子供達も非常に残念がっていたと聞いている。

加藤 : 今年は暑さで倒れる人が全国で出ているが、少年自然の家の事業の中ではないなかったか。

野村:この中ではない。グリーンスクールで宿泊利用の4年生の中には熱中症になった子が何人かいる。

加藤:救急車で運ばれた?

野村:そこまでは行ってない。

加藤:動植物園のウシの死亡は老衰という事だが、これは1頭か2頭か。

須藤:亡くなったのは1頭で、他に若い個体がいる。全く居なくなってしまった訳では無い。

加藤:私の方にちょっと情報が入ってなかった。

須藤:かなり老齢で獣舎の中で過ごしていた為、来園者の目前で亡くなるという事はなかった。動物の暑さ対策で飼育員が非常に苦労したが、来園者も動物も何とか夏を乗り切った。

加藤:何か暑さを乗り切る策をおこなったのか。

須藤:ミストシャワーを入口やオランウータン舎周り、サル舎周りで付けたり、自然博物館の協力で来園者に冷房の効いた自然博物館で休憩後、園内へ戻って頂く等した。暑い時期はレクチャールームに冷房を入れて解放し、折り紙教室で利用を促した。今まで閉めていた3階の展示室を子供用の遊びスペースとして子供向け設備を整え、暑い時と涼しくなった時でゾーンを上手く使い分けて頂いた。

加藤:サル山のオトメは元気か?

松浦:子供も3頭産み、群れに馴染んで元気にやっている。

加藤:ちょっと心配していた。

時田:他に。

淡路:少年自然の家の利用状況が前年比というのほどこか出ていたか。9月までこの数字?

野村:はい。

淡路:他は前年比とあったので。

野村:昨年度の宿泊利用者数 5,962 人、プラネタリウム見学者数 5,034 人、日帰り利用者数 2,329 人、利用者総数 9,793 人となっている。

淡路:加藤委員指摘のように、マイナス数字の捉え方が一方的ではないか。天候や暑さはこの先でもありえるが、代替行事か一旦中止にして順延とするのか等が少々不明瞭。酷暑や台風でのイベント中止時にはどうするか考えた方が良いのではと感じた。今すぐの回答でなくても良い。

時田:では、今の意見を参考に。他は。

高橋:資料3の大町公園整備事業は前期終了という事だが、今後どんな事を続けて行くのか。来年度予算で継続するのか。

須藤:資料2 ページ目は下半期に向けて実施する事業が主。上半期はレストハウス3階にキッズスペースを設ける等、利用者の安全と利便性を図る事を目指している。来年度については12月議会で補正を要求し、来年度予算も査定を提案していく。基本的には施設老朽化の為の事故や機能不全にならないよう、来園者や飼育動物、職員が酷暑でも何とか快適に健康に過ごせるよう、安心安全を目指して取り組んでいく。観賞植物園や自然観察園についても同じような考え方で臨んでいく方針。

井上:フライングケージは報告に無いが、ここには含まれないのか。

須藤:資料3の1ページ①動植物園の下から2番目「フライングケージ」にフラミンゴ・オシドリ・シユバシコウ等がある。フライングケージは昨年に鳥インフルエンザの影響で通り抜け出来ず、来園者が不便だった事もあり別にスロープを設置予定。ケージ内の樹木が伸び過ぎで鳥が見えない、影になるという問題が発生しているが機械を入れての伐採が難しい場所の為、課題として見易いように少しずつ改善し、樹木の伐採は業者と一緒に実践していきたい。

時田:他に。無いなら議題1については終了、議題2からは竹内委員長をお願いします。

竹内:では議題の2から。議題2「大町公園現地視察報告について」、事務局より一括でよろしいか。

須藤:前回の野外視察の感想や指摘についての対応紹介。まず湿地中央や斜面林付近のイボタは常緑樹で

放置するとすぐ伸びる、水田環境である谷津の環境を害しないか、伸びる前に伐採した方が良いのではという意見。その部分は全て刈ると環境的に寂しい事、花に蝶が集まる事もあり、刈り込んで小さく残す事を考えている。次にキショウブが増えすぎているのではという指摘。地上部だけ刈っても根茎部が残るとまた増えるという指摘の通りだが、泥深い所である関係で、土中の根株を全て掘り取る事は集中して実施出来る環境を整えてからになるので、課題として取り組んでいきたい。綺麗だが外来種でもあるので、出来るだけ本来の谷津田の自然環境に戻す形で対応していきたい。もみじ山から下った池の脇の、自然博物館グリーンスクール用体験エリアを拡張したらどうかという意見。あそこは全体のゾーニング計画としてももう少し水田環境を広く確保しようという考えで、少しずつ体験場所の環境を増やしていきたい。ただ、草刈り後も一週間位で田の状態でなくなってしまふ為、体験場所増加と維持の為に職員や学芸員が努力している。利用する学校の規模や人数に応じて整えていきたい。ここも出来るだけ範囲を広げる形で実行していきたい。観賞植物園前の橋周辺の池が埋まり陸地化した所で植物が増えて来ているが、伐採除去すべきなのではという意見。基本的には伐採し本来の谷津田の風景に戻す事を考えているが、樹木の陰でホタルが発生し見やすい場所が一部で新たに出来ている。その為全部を伐採せず成長を抑制し数を減らして、ホタルが暗所を確保出来る場所を少し残したい。昨年整備した水路の板囲いの中にも周辺と同じく植物が生え、その結果流れを阻害するのではないかと、という意見。ここは水の流れを確保するように、自然博物館とボランティアの方で水量や水深の確保が出来るよう、植物の除去を進めている。水路から北側へは徐々に伐採中だが、大町門から園内が見渡せるよう、もう少し整備した方が良くはないか。道路から谷底を見た時に道路側が雑然としている、そこが綺麗になればもう少し来園者も増えるのではという意見。こちらは、大町門の上から斜面林を見つつ湿地の広がりを一望出来る環境は長田谷津の魅力の一つにもなるので、大規模伐採の機械等を入れる事は中々難しいが計画的に伐採を進めていければと思う。一般的に樹木が伸び過ぎ、今年の台風の影響で何本か大木が大規模に倒れた。その処理も『吊切り』と言って高所作業車で40cm位ずつ伐るという作業になる。業者が安全確保しながら作業する関係で、高所作業車が入らない所は作業が難しい。自然観察園の一番の問題点でもある。伸び過ぎた樹木が倒れての園路の破損や、来園者への被害を避ける意味でも徐々に伐採を進めたい。技術面や費用面で大変難しい所があるが、少しずつ条件を整えて対応していきたい。樹木の伐採時等に突然「危険の為立ち入り禁止」と言って伐採を始めるのではなく、事前に理由を利用者に周知すべき、という意見。そちらは出来るだけ「何の為の伐採か」「伐採するエリアと期間」の事前告知を心がけている。ただ、台風等急な被害の危険については事前告知出来ない所があるので、そこは樹木伐採や園内巡回を常に行う事で園路の周回部分を制限し、理由を利用者に告知して理解を頂けるよう続けて行きたい。最後に、石の遊歩道が所により不安定で、落ちたり引っかかって怪我をするのではという意見。これは指摘後すぐに植物園作業員が状況を確認して、不安定な所はクサビを打つ等して点検を怠らないようにし、現状ではお年寄り等でも安全に通行出来るように心がけた点検をしている。前回視察での指摘や提案についての説明は以上。

竹内：質疑のある方は挙手を。

須藤：皆様の経験や目で気付かない点や見落としとしていた所の指摘を頂き、改善の必要性や予算をどう投じるべきかにも反映していきたい。一気に解決は出来ないが、意見を参考に自然観察園の将来の自然をどのような姿にするかの方向性を盛り込んで草案を作りたいと考えている。

加藤：質問はなかったが、時間内でこれだけ質問が出た所に驚いたし、長田谷津園内の遊歩道整備改修も迅速な対応で嬉しい。今後も現地視察等があれば、違う目線で大きな意見等の要望も言えると思うので、現地視察はこれからも継続を希望する。

竹内：他に何か。

高橋：取り組みは良いと思うが、人間目線とするのはどうか。これからも生物多様性を優先に整備して、人間目線では無く生き物の目線を忘れない事をお願いしたい。

須藤：来年度予定で自然観察園の整備・維持、生物多様性への配慮と人の利用について取り纏め、草案を示せばと考えている。昔の谷津田の景観に全て戻すのは大変難しい。ゾーニングで田に戻す所、既に変化している自然に定着しつつあるもの、伸びすぎた斜面林の対処等が課題。生物多様性に配慮しつつ、一方で利用者が楽しめる環境という事で取り纏められれば。

竹内：今年は雑草には好条件だったが、遊歩道は1m位茂っている場所もある。せめて歩道から1m位離して除草して欲しい。皮膚が当たるとかぶれそうだという意見も聞いたので、歩いて触れない程度にはして貰いたい。利用者からと私からの意見。

須藤：園路の青草は、夏は刈って3日程で伸びるような状況。ホタルの前に草刈りをするが1カ月もたない。秋には枯れ始めるので影響は大きくないが、通行に障害が出そうな所や見通しが悪くなる場所については積極的に草刈りをしている。台風等による落枝も出来るだけ無いよう、伸びすぎて枯れている枝等は積極的に除去をしており、職員と業者で分担しながら続けて行きたい。全ての利用者が満足する完璧な整備は難しいが、そういう声は改めて心に留めて今後も管理に努めたい。

竹内：議題の3番目「その他」について、事務局から。

宮川：議題1と2の協議が終わったので、第2回大町レクリエーションゾーン協議会は終了。この後3時30分より梨の大玉コンクール表彰式をレクチャールーム1階のホールで執り行う予定。

加藤：淡路委員も言われた来園数の少なさ等の話になるが、アンデルセン公園は建物等が無いがマスコミに取り上げられる回数が多く、利用が上手いのでは。来園数増加の必須条件の一つはマスコミを上手く使う事だと思うが、動植物園はマスコミ等に中々取り上げられないので、今後の行事、特に子供の園への迎え方や催し物の行事企画等を考えているのか、平年通りなのか聞きたい。

須藤：季節の行事は七夕まつりとクリスマスツリー等の飾り付けを正面ゲートで。ハロウィーンは現在ブームだが仮装メインなので、動物園は来園者に生き物の大切さを感じてもらい、合わせて自然観察園で自然の豊かさを理解してもらうのが本筋かと。来園者に楽しんで頂く面も、その中だと考えている。梨の大玉コンクール表彰式まで時間があるので、レストハウス3階に新設したキッズルームをご覧頂きたい。職員手作りの動物の解説看板も新作に作り替えており、来園者に理解し楽しんで頂いている。他にも、図書館の協力で夏休みに子供図書館で動物を扱う図書コーナーを設け、しおりを作り本の間に挟むPR活動を始めている。マスコミの活用では、定例記者発表時には可能な限り近々の情報を提供すると同時にテレビやラジオの取材等にも応じている。取材を受けた「ぶらり途中下車の旅」という番組や「所さんのお届け物です」という番組も近々放映の予定。後、こちらから仕掛けた訳では無いが伊集院光というタレントが個人で来園して、想像より大変楽しい動物園だ、市川の動物園は面白いとラジオ放送で紹介しツイッターの動画掲載もあった。その反響やラジオ放送を聞いた市民から幾つも感想を頂いた。本来の動物園としての姿と楽しめる部分を、合わせてマスコミで紹介して行きたい。利用者目線に立ち、今後とも指摘、指導をお願いしたい。

加藤：毎年の恒例行事は慣れる。それは良いが、今の話の方達もアンデルセン公園なんて殆ど来ない。私達が行った時も、何も施設はありませんと言っていた。それで何故人気かといえば、ハロウィーン等の時期と旬の物を取り入れる工夫をしている。須藤園長が言ったように動物園の趣旨から外れるべきでないと思うし動物を見るのが主体だと思うが、キッズルームの話も私達も今初めて聞いた位だから、市民や一般の方が知らない状況はどうか。広報いちかわ等に動植物園のコーナーがあれば、伊集院さんがこんな事を言ってくれた、素晴らしいですねと知らせるだけでも、行ってみようかと人が来るが、そのPRをどうしている等が無いので自己満足になってしまう。動物園は動物園で良いが、来園までの人の吸収やアプローチをもう少し企画して頂ければ。

竹内：アンデルセン公園視察の際に集客について聞いたら、第一に整備をきちんとして来園者が気軽に入れる場所であれば特別な事もない、と。あちらは自然体であるべき所はそのまま、整備の必要がある所はちゃんとしている感じが強いが、こちらはそういうメリハリが無い。行事等もずっと同じものでなく、少し人目を引くようなイベント、アイデア次第で少しは良くなるのでは。

井上：先程の色々な利用者の目線でというのはどんな風か。大人の目線や意見はここで聞けると思うが、子供の感想や意見はアンケート等？

須藤：子供達から直接感想を聞けると大変参考になるが、直接来園者に話しかける事が昨今は大変警戒される場合がある。声をかけると「楽しい」という以上の事が中々出てこない面もある。未就学児の遠足が非常に多いので来園後の感想を吸い上げるのはアンケートになるが、引率者の意見になりがちなので子供の意見をどう吸い上げるかは課題。

竹内：他に。

石原：二つ程。一つは加藤委員のハロウィーン等の話は、園で一般的なハロウィーンをする訳でなく、それを利用して集客したらという事かと。ハロウィーンにも黒猫等の動物は出てくる。動物の仮装で来園するとプレゼント等、動物にちなむもので工夫してはどうか。それらが少し足りない感じ、もう少し柔軟に。工夫とイベント等で集客する為には子供の目線や若い人達へのアピールも必要。アンデルセン公園は何にも無いが、デート出来る雰囲気等がある。バレンタインやクリスマス等の季節物を利用する感じで行ったら良いのでは。動物の展示を見るのが主なのは分かるが、来なければ見て貰えない。まずどう来て貰うかだと思うので、そこは柔軟に考えて欲しい。もう一つ、資料中で主な新事業「バラまつり」「七夕まつり」「ホテル観賞会」等あるが、こういう資料を出す時は過去3年分位の人数を出さないと比較が出来ない。ただ人数を出すのでは無く、増減が一目で分かる形で、最低でも直近3年分位の数字を出して頂きたい。これは要望です。

竹内：他にございませんか。それではこれで、第2回目のレクリエーションゾーン協議会を終了させていただきます。どうもご協力ありがとうございました。

宮川：大玉コンクールまで1時間弱あるので園内を見て頂き、表彰式はレストハウス1階で3時半より行います。10分前位にお集まりください。